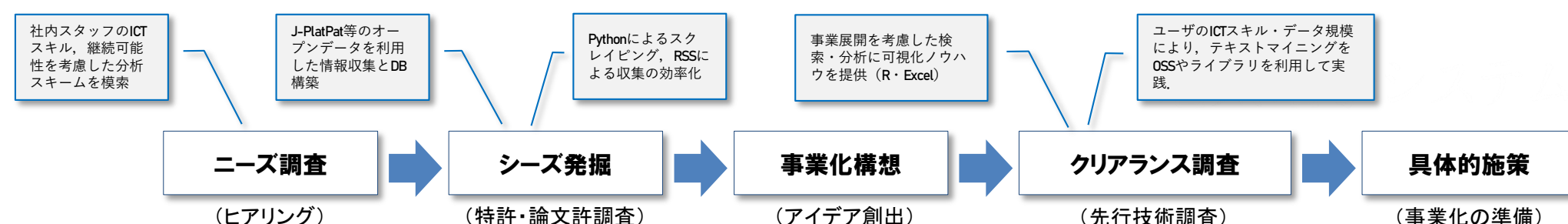


中小企業との産学連携における 低コストの特許情報分析手法

知財情報分析スキームの提供

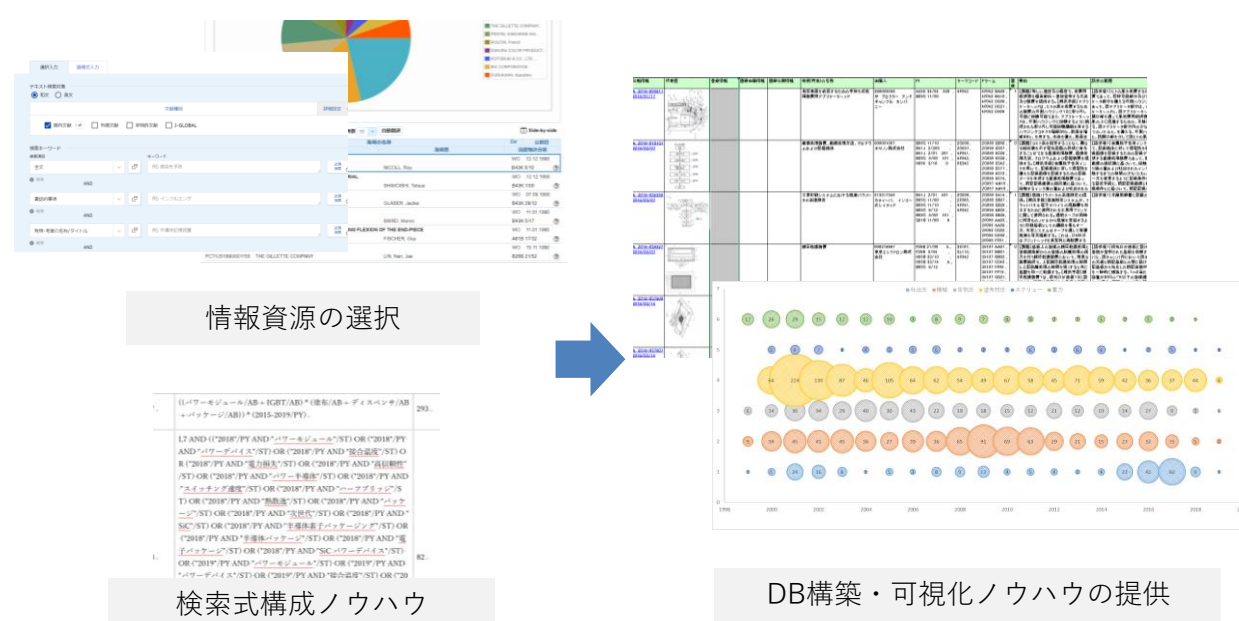
産学連携に質するパテントマップ構築に関して、地域中小企業での活用を念頭に、低コストで実現できる知財情報分析スキームの設計を進めている。これに先立ち、実務経験者を中心とした研究会、意見交換の実施により、商用データベース・分析サービスの現状と活用、オープンソースライブラリ、フリーソフトウェアを用いた定性分析・定量分析を通して、仮想事例を設定した調査・分析スキームのモデル化を進めてきた。また、簡易言語であるPythonを中心に展開されているWEBスクレイピング、分析用ライブラリを用い、知財情報への適用可能性を調査した。さらに、近年注目されているIPランドスケープについて、その本質や産学連携マッチングにおける有用性について、産官学の立場からのヒアリングを中心に情報収集を進めている。



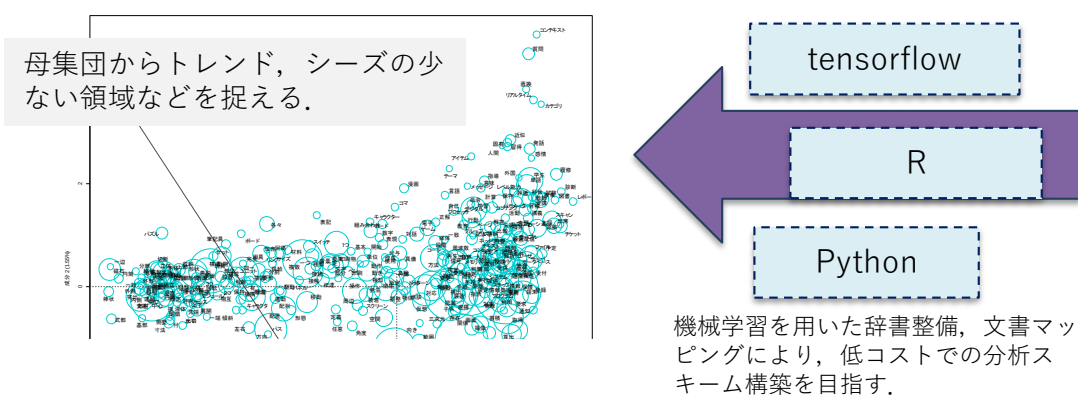
検索・収集・分析ノウハウの提供

特許・論文情報を提供するデータベースは、有償・無償を問わず多く存在する。商用データベースサービスを利用すれば、検索は容易であり、特殊な分析ツールも備わっていることがほとんどである。しかし、大規模分析には向いているものの、知財の知識・システムの理解がなければ実施内容がブラックボックス化し、結果を捉えることが困難である。よって、本プロジェクトでは無償データベースを基本とし、検索対象の構造や特性に関する知識獲得の効果も含めて、その情報整理から始まり、活用までのノウハウ提供を実践する。

これは、知的財産情報収集・分析の普及活動としての側面もあり、SMEにおける知財活用の活性化を目的とする施策である。

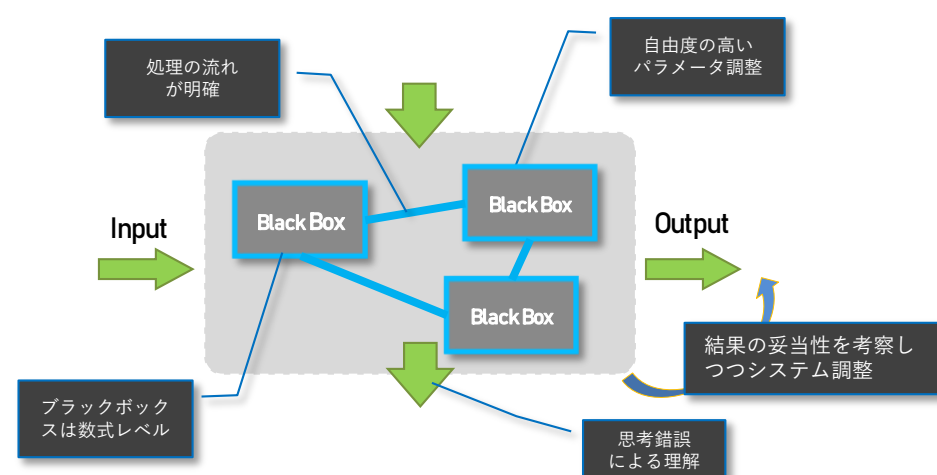
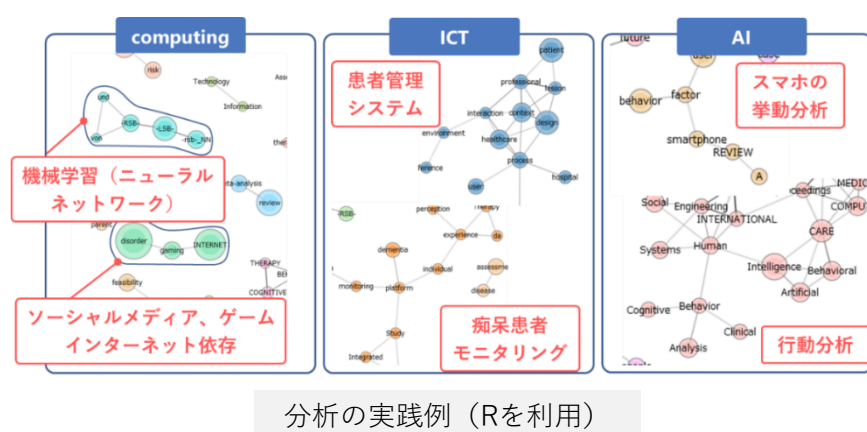


OSSを利用した低コストの分析アプローチ



SMEを対象とするため、IT人材の確保が困難であることが多い。また分析スキームを提示したところで、継続的な実践のためのノウハウが継承されにくい。そのため、ブラックボックスを極力避ける意味で、OSSやフリーウェアを積極的に導入し、分析作業の効率化を推進する。

これにより、コンサルティング後のサポートに寄るのではなく、自己解決によるアップデート、刷新を実践できる環境構築を目指す。



産学連携マッチングを目的とした調査・分析スキームのモデル化については、幾つかの研究課題において整理した段階にある。それに伴うICT・AI技術の適用についても、ステージ毎の単発的な実施ではあるが、実現可能性を検証済みである。

今後はこれらをまとめて一連のシステムとして提案する作業に入る。ただし、当活動の課題としては、SMEを対象としたスキーム提供を目的とするため、完結したアプリケーション開発を目指すのではなく、フリーウェア・OSSを用いた「調査・分析ステージ」と「ノウハウ」を紐づけたスキームとして提供することにある。継続性の保証がないOSSやFWの存在に依存するため、継続利用におけるリスクについても十分に考慮しつつ、実際のマッチング課題への適用により、運用レベルへと展開する。